

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300199		
法人名	タカハシライフサポート株式会社		
事業所名	グループホーム 花・水・木		
所在地	網走市駒場北1丁目3-21		
自己評価作成日	平成29年12月8日(金)	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中に位置し、目の前にはバス停、施設前の大きな道にはショッピング街があり、この道1本で日常生活に必要な物が揃うという、とても便利なり立地となっています。
 2階の一部の部屋からはオホーツク海が眺めることができ、2月になると真っ白な流水で埋め尽くされ、夏には鮮やかな青い海や、市で行われる花火大会を楽しむことができます。
 また、サービス付き高齢者向け住宅が併設されており、夫婦のどちらかが認知症となった場合でもグループホームと住宅とに分かれて入居し、自由に行き来が出来るように一緒に食事やレクを楽しむことが出来ます。
 現在は1組の夫婦が入居されており、一緒に過ごす事ができる事を大変喜ばれています。
 カラオケマシンを設置しており、毎週日曜日には住宅と合同でカラオケ大会を行っています。参加される入居者様はこの日の為に発声練習を行ったり、おしゃべりをして会場へ向かっています。また、歌うのが苦手な方は、同じフロアの方の応援や職員の歌を聞くことを楽しみに参加されています。
 今後は地域の方との交流や、町内会のイベントにも積極的に参加し、理念でもある「地域に根ざしたオアシス」となれるよう、力を入れていきたいと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvoynoCd=0195300173-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成30年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービス付き高齢者住宅、小規模多機能事業所が併設されているグループホーム花・水・木は運営する法人の理念「お客様第一主義」と「何よりも入居者様を第一に、楽しく安心して笑顔があふれる生活を送って頂くために、家庭的で一人ひとりを尊重した、ふれあいを大切に、地域に根差した信頼されるオアシスでありたい」とのグループホームの理念のもと、利用者の思いや生活を中心に据えた取り組みを行っています。現在高齢者住宅とグループホームに夫婦が入居しており併設している利点が生かされています。また、利用者同士が、毎週日曜日には、ホールに集まりカラオケを行ったり、敬老会や夏祭りは合同で開催し家族の参加もあり楽しい時間を過ごしています。利用者の介護計画作成に当たっては、サービス担当者会議に、利用者本人や家族の参加があり要望や暮らし方の希望を把握したり、職員間で行うケース会議には予め計画作成者のモニタリングを配布して職員に意見を貰い現状に即した介護計画を作成し、丁寧な取り組みを行い、適切に提供出来る様に行っています。更に、申し送りに必要な事項の漏れが無い様に、申し送りシートを工夫し情報共有に努めています。利用者や職員のコミュニケーションや信頼関係は厚く和気あいあいと和やかな雰囲気グループホームと成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示している。	お客様第一主義の法人理念と、事業所理念を掲示しており、毎月社長訓示が行われ、常に利用者の事を中心に考えた介護に取り組み、理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等、施設のイベント時に地域の慰問の方に来ていただいている。今後も継続していく。	開設時から町内会に加入しており、管理者は新年会総会へ出席して、グループホームの理解に努めています。避難訓練にはチラシを配布して協力をお願いしていますが協力を得る事は今後の課題と成っています。	グループホームへの見学訪問が有りますが、さらに理解を得られるための取り組みや日常的な交流が出来る様に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加された家族や、面会にいられた家族や友人等に対しては行っているが、地域に向けては行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険係や地域包括支援センターの方よりいただいたアドバイスや情報等を参考に、実践している。 家族や地域の方からの提案、アドバイス、要望等を取り入れて行きたいと考えている。	運営推進会議は奇数月に併設の小規模多機能事業所と合同で利用者家族、町内会役員、民生委員、行政担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催しています。家族へは毎回異なる方へお願いしており、その他の家族へは議事録を送付して情報共有し要望を伺って運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例等がある場合には、電話等で相談・連絡を行いスタッフへ周知しているが、記録は残っていない。	市担当者とは運営推進会議への出席時や報告書提出で訪問する時に、相談や情報収集を行っており、積極的に協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠をしている。 危険の伴う入居者様の様子や状況についてカンファレンスを行い、スタッフ間で共有している。 身体拘束にならないよう、対応を行っている。	身体拘束や虐待防止については、会議時に事例を話し合い禁止対象となる具体的禁止行為や不適切な言動について話しあっています。特に言葉遣いについては何か気になる事が有る時は管理者は都度注意喚起を行って身体拘束の無い介護に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でに学習や、外部研修に参加し、学ぶ機会を設けている。業務の中で注意を受けた事などを事例とし、更なる改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学ぶ機会はあるが、内部研修等は行っていない。 今後、研修の議題として行っていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書・契約書を読んで説明している。保安や疑問点がないかを確認しながら、理解していただけるよう説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時等に意見・要望をいただき、反映させている。	利用者や家族の意見や要望は日常や面会時の会話の中から把握しています。要望を把握した場合には記録して引き継ぎ時や会議の時に皆で話し合い改善したり反映して運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所での会議や休憩時間に職員と話し、意見等を聞いている。その他、随時意見や提案をもらい、反映させている。	職員の意見や提案は毎月のフロア会議の中で話し合い、方向性を出しながら提案に結び付けています。管理者はリーダー会議や責任者会議で意見や要望について話し合い運営に反映させています。また、フロア会議では学習に取り組み資質の向上を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりが仕事にやりがいを持てるよう係りの担当を決めて実践したり、有給休暇の利用や退社時間の厳守を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている。 また、外部研修に参加した際は、スタッフ会議等で伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム部会が主催している「スタッフ交流会」に参加することで同業者との交流機会があり、その時に意見交換したものを日々の業務の参考にしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・計画作成担当者が面接を行い、本人と話す時間を設けている。 その際に、要望や心配事を聞き、安心していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約前、契約時に家族と話す時間を設け、要望や心配事を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にその人に必要な支援を検討し、インフォーマルなサービスも利用できるような情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力に応じて、家事や作業等に参加してもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は家族にお願いしている。その他、外出、一時帰宅等で交流の機会を作っている。 本人の状況等を伝え、可能なことは家族へ対応をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等が面会へ訪れてくれる機会が多い。 個々の状態に合わせて、ドライブ等で自宅や昔住んでいた地域を回ったりしている。回数は少ないため、今後増やしていきたいと考えている。	利用者のこれまでの馴染み店等の希望はありませんが、老人クラブに通う利用者へは送迎の対応をしています。また、知人の訪問が有り関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やホールでの座席の位置に配慮し、入居者同士がコミュニケーションをとることが出来るよう工夫している。また、難聴や認知症の程度により、コミュニケーションが難しい方が孤立してしまわないよう職員が間に入るなど、配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との信頼関係を築き、必要時に対応出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から、入居前の生活歴や今後の生活についての希望を聞き、それに応えられるようスタッフ間でカンファレンスを行ったり、その都度本人や家族と話し合いを行っている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、利用前の面接時や懇談の時、さらにフェイスシート、アセスメントで把握しています。法人、グループホームの理念にある利用者第一を徹底して取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で確認したり、入居後もコミュニケーションを通して話を聞いたりしている。また、これまでにサービスを利用していた場合は、担当CMからも情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や状況等をケース記録に記入したり、申し送りにて情報の共有・把握が出来るよう努めている。状況に応じてカンファレンスを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に話を聞いたり、スタッフ間でカンファレンスを行い、個々にあった必要な支援を検討している。	介護計画は概ね3ヶ月毎に利用者、家族の出席するサービス担当者会議で意向を把握しながらカンファレンスで詳細に職員で話し合いを行って現状に即した介護計画を作成し、生活記録に提供するサービスを記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に短期目標とサービス内容を記載し、それを見ながら実践出来るよう工夫をしている。状況の変化等がある場合には、その都度カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人・家族の希望や、急な受診等、状況に応じた対応を家族と連絡を取り合いながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いていけるお店や移動販売等の活用、作品作りや植物のお世話等、生き生きと過ごせる環境を作り支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の様子や状態をケース記録や連絡ノートに記入したり、引継ぎ等で情報を共有し、Drにスムーズに相談が行えるよう、受診時に家族にメモやバイタル表のコピー等を渡している。	定期的な受診は基本的には家族対応でお願いしており、日常の様子やバイタルを提供して適切な受診が出来るよう支援しています。また、かかりつけ医による往診を受けている利用者もいます。訪問看護師が毎週健康管理を行い、看護師資格のある介護職員も在籍しており適切な支援に取り組んでいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問してくれているNsに変化等があった場合は相談し、処置や受診等のアドバイスをいただいている。また、朝夕の引継ぎの際に情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行く等、家族や医療従事者との連絡・連携を取り合いながら、情報交換を行い、退院についての相談も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を確認し、施設ではどこまで対応できるかの説明、急変時にはマニュアルに沿った対応を行っていくことを伝えている。	現在事業所では重度化、終末期対応の看取り介護には取り組んでいない旨利用前に説明しており、理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員には行っていないが、外部で行う救命救急の講習に参加している。施設内で行う研修の検討や、外部での研修参加を促していきたいと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間帯を想定した避難訓練を実施している。訓練実施時には町内会への案内を配布したり、運営推進会議にて報告を行っている。	年2回6月、9月に日中、夜間想定で消防署の指導を得て併設の小規模多機能事業所、サービス付き高齢者住宅利用者と合同で実施しています。地域へは案内文を配布していますが参加はこれからの課題と成っています。	地域住民の協力が得られるような取り組み、工夫とライフライン断絶等その他の災害対策への対応を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが入居者様を人生の先輩としての認識を持ち、個人にあった声かけを行っている。	利用者の尊厳や誇りを傷つけない対応と、プライバシーに気を付けた介護に取り組んでいます。特に会話や呼称には十分注意をした対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人が日常生活の中で負担なくできる事を見守り等を行っている。 移動販売や、外出等での気分転換を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調変化に配慮し、個人のペースに合わせ、無理のない生活が出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温変化にも対応できるよう衣類を選びを入居者様と一緒にしている。 また、誕生日やクリスマスのプレゼントに衣類や小物等を選び、プレゼントしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様が協力し、食器拭きやテーブル拭き、ゴミ捨て等を一緒に行っている。また、メニューにより簡単な調理を一緒に行っている。	献立は栄養士の資格を持つ職員によって1週間毎に作成されています。食材は宅配を利用し、利用者と共に調理しながら楽しい食事に取り組んでいます。敬老会や夏祭りの行事にはサ高住の委託調理会社により提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状や医師からの指示を踏まえ、水分量・食事量・形状等を個人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りにて口腔ケアを促している。入居者様の体調や状況に応じて、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。出来るだけ失敗を減らし、トイレで排泄ができるよう努めている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録してパターンを把握し失敗の少ない支援に取り組んでいます。便秘気味の利用者には、運動や水分、食事に配慮しながら、必要に応じて看護師と相談をして薬の服用も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況のチェックを行い、個々に応じて運動や水分、食事に配慮している。必要時にはDrへ相談し、下剤の服用や調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や、受診部に配慮し入浴日を決めている。時間帯はその都度本人と相談し、希望に沿うことができるよう努めている。	入浴は、毎週2回、利用者のその日の状態や状況を考慮しながら基本的には同性が介助を行っています。好みで入浴剤を使用したりして、楽しく入浴ができるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の希望があるときには休んでいただいたり、ウトウトしているのを見かけたときには、声かけを行っている。夜間は状況に応じて、明るさの調整や声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬手帳を確認し、スタッフ全員が把握するよう努めている。通院に同行した際には、DrやNsに薬の説明を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや本人の得意な事、好きな事を少しずつ取り入れている。 生活の中では個々の力量・能力に応じ、役割分担をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外イベントを計画・参加したり、家族との外出にも支援している。 また、本人の希望やスタッフからの声かけも行い、買い物に行っている。	外出は日常的に付近を散歩したり、近隣のコンビニやスーパーへ買い物に出かけています。季節毎に、法人が経営するバス会社の大型バスで近隣町村の芝桜公園や道の駅に行き家族と共に過ごしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の残存能力に応じて、お小遣い程度の金額を本人管理とし、自販機や近くのお店、移動販売にて買い物している。また、受診等では自分で支払いを行ったりしている。まとまったお金は施設管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族や友人へ電話をしたり、手紙や年賀状等の代筆、投函を行っている。 携帯電話を持参している方は自由に連絡を取ることができ、わからない時はお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りや、オーナメントを飾っている。 職員と入居者様が協力して清掃を行い、その都度汚れた箇所は掃除している。	リビングに温湿度計があり、大きな加湿器で冬期間調整されています。トイレが苦手な利用者の為にトイレ内に張り絵が飾られていたり、季節の飾付けがなされています。廊下等の壁には行事の写真が貼ってあり、皆で楽しんでいきます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、居室を自由に行き来していただいている。 職員が間に入りながら、自由に会話や作業が出来るよう見守り等を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が過ごしやすいよう、一人ひとりにあった家具の配置を検討したり、自宅で使用していたもの、好みのものを持ってきていただいている。	室内にはクローゼットが設置されており、ベットやソファ、筆筒等の家具が配置され、家族の写真や絵を飾りながら自宅同様に居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動時に危険がないよう空間に配慮している。 また、トイレに使用状況を把握するための札をつけたり、居室に名前や写真、飾りを貼るなどの工夫をしている。		